

●平成 26 年度 第 9 回 『 子どもの脳腫瘍 』

講 師 : 広島大学病院 脳神経外科 山崎 文之 先生
実施日時 : 平成 26 年 12 月 6 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 15
会 場 : 広島市南区民文化センター
対 象 者 : 脳腫瘍の子どもの家族、支援関係者、関心のある方
参 加 者 : 12 名 (家族 10、介護士 1、患者会 1)

担当 : 広島市

●講演内容

①脳腫瘍の分類

原発性と転移性、組織別発生頻度

②子どもの脳腫瘍の特徴と現実

③子どもの脳腫瘍の治療

手術、放射線療法、化学療法

④後遺症と晩期障害

原因や程度に影響する要因、症状

⑤脳腫瘍の子どもの悩み、サポート



●アンケート結果より

<参加のきっかけ・動機>

「病気や治療後のことを詳しく知りたいと思った」「今後の生活や注意することなどを知りたかった」
「子どもの予後の事が気になり、少しでも何かできることはないかと思った」「現在治療中のため」
「子どもが脳腫瘍になり色々辛い思いをしたが、前へと向き合いたいと思った」

<参加された方の感想>

「初めて参加したが詳しい話が聞けて良かった」「時代と共に治療技術が進歩していることが分かった」
「なかなか脳腫瘍を経験した人と話す機会がなかったが、同じ経験を語り合えて嬉しかった」
「知的障害、麻痺などの身体障害をどのようにしたら改善できるかというような内容が知りたい」

●相談員から一言

今までは白血病や脳腫瘍などを、小児がんとしてまとめて交流会を行っていましたが、今回初めて脳腫瘍をテーマで開催しました。講師は脳神経外科医で小児脳腫瘍がご専門である山崎先生にお願いしました。講演では脳の機能と病気の関係、病気や治療(手術・放射線治療・化学療法)による後遺症や、治療を終了して数年経過してから現れる晩期障害について、ひとつひとつ丁寧に説明されました。土曜日でしたのでお父さんも数名参加されており、熱心に聞いておられました。

後半の交流会は、山崎先生や患者会の落久保さんを交えの和やかな会でした。ご家族にとって治療経過はもちろんですが、やはり学校に関するご心配なようで、「普通級でいいのか」「学校側に子どものことを理解してもらいたい」「能力がだんだん落ちて周りについていけない」など、気になっていることを皆さんで話し合いました。お子さん年齢に差があったので、他の方からのお話はそのまま先輩ママとしてのアドバイスとなりました。特に患者会の落久保さんのお話はとても参考になったようでした。

